

口 絵	1	(1) 広報資料の作成及び発送	18
ごあいさつ	1	(2) 広報と掲示及び掲載	18
フロア構成	2	(3) 昭和館だよりの発行	18
年間主要行事	3	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業	18
		① 事業の概要	18
		② 事業の実施状況	19
令和6年度事業概要	4	(5) 第23回昭和館作文コンクール	22
I 展示事業	4	(6) 第17回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	22
1 常設展示	4	2 『昭和のくらし研究』の刊行	23
(1) 常設展示室の概要	4	3 昭和館運営専門委員会の開催	24
(2) 展示資料の入れ替え	4	4 昭和館運営有識者会議の開催	24
2 巡回特別企画展の開催	4	5 インターンシップ	24
(1) 第45回巡回特別企画展		6 関係施設等連携会議の開催等	25
「くらしにみる昭和の時代 大分展」	5	(1) 第26回、第27回会議について	25
(2) 第46回巡回特別企画展		(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	25
「くらしにみる昭和の時代 京都展」	5	(3) 絵画展「戦争になるとどうなるの？」	25
3 貸出キット	6	マンガ・挿絵で見る戦争体験	25
4 紙芝居定期上演会	6	(4) 巡回特別企画展の相互協力	25
5 実物資料の収集と保存	7	(5) 開館25周年記念事業	25
(1) 実物資料の収集	7	① 開館記念日終日常設展示室無料及び	
(2) 実物資料の保存と補修	7	先着250組限定粗品贈呈等	25
6 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作	7	② 開館25周年記念スタンプラリー	25
II 図書映像資料等閲覧事業	8	③ 特別映画上映会	26
1 図書文献関係	8	④ 落語上演会	26
(1) 運用管理	8	⑤ 開館25周年記念メモリアル懸垂幕掲揚	26
① 閲覧室及び書庫の管理	8	⑥ 4月以降、毎月25日先着25組限定粗品贈呈	26
② レファレンス・サービス(参考調査業務)	8	⑦ 高校生・大学生を対象とした語り部との交流企画	27
③ 利用ガイドの発行	8	V 特別企画展等の開催及び概要	27
④ 展示関連図書の公開と参考図書		1 昭和館開館25周年記念特別企画展	
リストの配布、読書案内	8	「慰問 銃後からのおくりもの」	27
⑤ ブックリストの作成	9	2 特別企画展	
⑥ ホームページ	9	「版画家が刻んだ昭和の彩りー館蔵版画集を中心にー」	28
⑦ 蔵書点検	9	3 1階ロビーでの資料展示	28
⑧ 利用状況	10	4 写真展	
(2) データ管理	10	「失われゆく昭和の仕事ー戦中・戦後の街頭風景ー」	28
(3) 保存管理	11	5 昭和館開館25周年記念写真展	
(4) 業務研修	11	「写真家たちがみつめた戦前・戦中」	29
2 映像・音響関係	11	6 昭和館開館25周年記念写真展	
(1) 資料整理、デジタル化	11	「石川光陽写真展 [第1期] 昭和の幕開け・モダン東京」	30
(2) 昭和館SPレコード鑑賞会	12	7 戦後80年特別企画写真展	
3 ニュースシアター	12	「石川光陽写真展 [第2期] 戦時下の東京」	30
4 収蔵資料	12	資料公開コーナー	31
(1) 図書資料の収蔵状況	12		
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	13		
III 関連情報提供事業	15	参 考	
1 運用管理	15	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和6年度)	32
(1) システム運用管理	15	2 令和6年度利用者実績	33
(2) データベース運用管理	15	3 常設展示室入場者数	33
(3) デジタルアーカイブの運用	16	4 来館団体御芳名	34
(4) ホームページ運用管理	16	5 第23回昭和館作文コンクール	
(5) SNSの活用	17	厚生労働大臣賞・昭和館館長賞受賞作品	35
(6) Wi-Fi提供	17	第17回昭和館中学生・高校生ポスター	
2 オーラルヒストリーの制作	17	コンクール入賞作品の紹介	37
IV 啓発広報等事業	18	7 施設概要	38
1 広報活動	18	8 令和6年度寄贈者御芳名	40

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「戦中の学童・学徒」



6階 常設展示室「昭和の暮らし—昭和30年代体験エリア—」
(令和6年度リニューアル)



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階ニュースシアターにて
SPレコード鑑賞会（令和7年1月11日（土））



昭和館開館25周年記念特別企画展
「慰問 銃後からのおくりもの」
（令和6年7月20日（土）～9月8日（日））



昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館 合同巡回展
（3館連携企画展）
「くらしにみる昭和の時代 大分展」
大分県立美術館 1階展示室A
（令和6年6月19日（水）～30日（日））



巡回特別企画展「くらしにみる昭和の時代 京都展」
京都市勧業館みやこめっせ 地下1階特別展示場
(令和6年12月18日(水)～27日(金))



昭和館開館25周年記念写真展
「写真家たちがみつめた戦前・戦中」
(令和6年7月6日(土)～10月27日(日))



昭和館開館25周年記念
「石川光陽写真展 昭和の幕開け・モダン東京」
（令和6年11月2日（土）～令和7年2月24日（月・祝））



こども霞が関見学デー
（令和6年8月7日（水）～8月8日（木））



昭和館開館25周年記念
「次世代の語り部と考える“戦争を語り継ぐこと” in 昭和館」
(令和6年11月10日(日))



開館25周年記念 落語上演会
(落語家 柳家さん八氏による口演)
(令和6年6月30日(日))



開館25周年記念 特別映画上映会（2日間）
（令和6年9月14日（土）・15日（日））



総入館者数700万人達成記念写真
（館長と北海道から来館されたご家族）
（令和7年2月7日（金））

ご あ い さ つ



昭和館は、昭和の時代に国民が経験した戦争とその時代の国民生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、悲慘な戦争の記憶と困難を極めた国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館し、戦後80年の節目となる令和7年2月には、これまでの総入館者数が700万人を数えるに至りました。

さて、令和6年度は、3月から5月には、特別企画展「昭和を駆け抜けた超特急～燕（つばめ）、そして新幹線へ」、写真展「失われゆく昭和の仕事－戦中・戦後の街頭風景－」、また、7月から9月には、特別企画展「昭和館開館25周年記念「慰問 銃後からのおくりもの」」、写真展「昭和館開館25周年記念「写真家たちがみつめた戦前・戦中」」を、さらに11月から本年2月にかけて「昭和館開館25周年記念「石川光陽写真展【第1期】昭和の幕開け・モダン東京」」を開催しました。加えて、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、夏休み3館めぐりスタンプラリー、小学生・中学生の作文コンクール、中学生・高校生のポスターコンクール、奇数月の紙芝居上演会の実施、紀要「昭和の暮らし研究」発刊などを実施し、さらに「次世代の語り部」事業では、現在、育成を終えた19名の語り部が、館内での定期講話会に加えて、小・中学校や自治体の平和イベント等へ赴いて講話を行いました。

また、巡回特別企画展については、6月に大分県（大分市）、12月に京都府（京都市）で開催し、大分県では「しょうけい館」・「平和祈念展示資料館」との3館連携企画展を同一会場で実施することができました。

さらに、本年3月から5月にかけて、特別企画展「版画家が刻んだ昭和の彩り－館蔵版画集を中心に－」を開催するとともに、写真展「戦後80年特別企画「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」」（6月末まで）を開催することができ、それぞれ1万人を超える入場者をお迎えできました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和6年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

なお、戦後80年にあたる本年から2期に分けて、6階常設展示室の体験ひろばに昭和30年代の町並みを再現する展示替えを行うこととし、第1期のリニューアル後の展示は3月より公開しております。

今後とも若い世代の皆様に昭和の戦争の記憶と戦中・戦後の様々な国民の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月

昭和館
館長 伍藤 忠春

フロア構成

常設展示室（入口）

7 階

常設展示室（出口）

6 階

映像・音響室

5 階

図書室

4 階

研修室・会議室

3 階

広 場

2 階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1 階

資料収蔵室

地下 1 階

設備管理室

地下 2 階

年間主要行事

令和6年	
3月9日～5月6日	昭和館開館25周年記念 特別企画展を開催 「昭和を駆け抜けた超特急 ～燕(つばめ)、そして新幹線へ～」
3月12日～6月30日	写真展を開催 「失われゆく昭和の仕事 一戦中・戦後の街頭風景」
3月27日	開館25周年記念日 終日常設展無料開放 先着250名に粗品贈呈 紙芝居定期上演会(原則奇数月第4土曜日) 次世代の語り部定期講話会(原則毎月第1日曜日)
4月29日	「昭和の日」(常設展示室無料)
6月19日～6月30日	第45回巡回特別企画展(3館同時開催)を開催 「くらしにみる昭和の時代 大分展」
6月25日	令和6年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月30日	昭和館開館25周年記念 落語上演会を開催
7月6日～10月27日	昭和館開館25周年記念写真展を開催 「写真家たちがみつめた戦前・戦中」
7月29日～7月31日	常設展示室の資料交換を実施(休室)
7月20日～9月8日	昭和館開館25周年記念特別企画展を開催 「慰問 銃後からのおくりもの」
7月20日～9月8日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を開催
8月7日～8月8日	こども霞が関見学デーに参加
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」(常設展示室無料)
9月14日～15日	昭和館開館25周年記念 特別映画上映会を開催
10月13日	S Pレコード鑑賞会を開催
11月2日～令和7年2月24日	昭和館開館25周年記念写真展を開催 「石川光陽写真展【第1期】昭和の幕開け・モダン東京」
11月10日	昭和館開館25周年記念 「次世代の語り部と考える“戦争を語り継ぐこと” in 昭和館」 を開催
12月18日～12月27日	第46回巡回特別企画展を開催 「くらしにみる昭和の時代 京都展」
令和7年	
1月5日～2月28日	常設展示室の展示替え工事及び資料交換を実施(休室)
1月11日	S Pレコード鑑賞会を開催
2月25日～3月10日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施(休室)
2月26日	第25回昭和館運営有識者会議を開催
3月15日～5月11日	特別企画展を開催 「版画家が刻んだ昭和の彩り—館蔵版画集を中心に—」
3月1日～6月29日	戦後80年特別企画写真展を開催 「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」
3月6日	令和6年度第2回昭和館運営専門委員会を開催

令和6年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

（「V 特別企画展等の開催及び概要」参照）

1 常設展示

（1）常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年頃から、昭和20年8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

（2）展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和6年度は6月末に大分での巡回特別企画展を開催していた関係で実施時期をずらし、7月29日（月）から7月31日（水）までの3日間で資料交換作業を実施した。また、令和7年1月5日（日）から2月28日（金）までの55日間、常設展示室を休室し、LED照明交換工事、体験ひろば改修工事、一部展示ケース交換、および「終戦直後の日本」コーナーのコンテンツ更新、資料交換作業を実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和6年度は、次の通り実施した。

(1) 第45回巡回特別企画展

「くらしにみる昭和の時代 大分展」

開催期間 令和6年6月19日(水)～6月30日(日)

会場 大分県立美術館 1階展示室A
(大分県大分市寿町2-1)

主催 昭和館
協力 一般財団法人大分県遺族会連合会および日本遺族会第5ブロック

後援 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会
大分合同新聞社 西日本新聞社 朝日新聞大分総局
読売新聞西部本社 NHK大分放送局 OBS大分放送
TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送

OCN大分ケーブルネットワーク 大分ケーブルテレコム
内 容 戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、次の世代へ語り継ぐため、東京の3つの国立の施設が合同で展示をおこなった。
昭和館は、戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるため、大分県ゆかりの実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介した。

同時開催 しょうけい館 平和祈念展示資料館(3館連携企画展)

入場者数 4,953人(413人/日)

(2) 第46回巡回特別企画展

「くらしにみる昭和の時代 京都展」

開催期間 令和6年12月18日(水)～12月27日(金)

会場 京都市勧業館みやこめっせ 地下1階特別展示場
(京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)

主催 昭和館
協力 一般財団法人京都府遺族会および日本遺族会第3ブロック

後援 京都府 京都府教育委員会 京都市 京都市教育委員会
京都新聞 読売新聞京都総局 朝日新聞京都総局
毎日新聞社京都支局 NHK京都放送局 KBS京都
エフエム京都

内 容 昭和館は、戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるため、京都府ゆかりの実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介した。

入場者数 3,381人(338人/日)



大分展



京都展

3 貸出キット

令和6年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸 出 先> (貸出実施順)

(学校) 4校

葛飾区立宝木塚小学校／目黒区立五本木小学校／品川区立中延小学校／富津市立吉野小学校

(地方公共団体) 7自治体

横須賀市役所民生局地域支援部市民生活課／川口市役所総務部総務課／上尾市役所市民生活部市民協働推進課／台東区役所総務部総務課(2回)／港区立麻布図書館／江戸川区立小松川図書館／台東区役所総務部総務課

(一般団体) 12団体

大森コラボレーション／綾瀬市遺族会／日本労働組合総連合会富山県連合会(連合富山)／佐賀市遺族連合会／鶴居村遺族会／とやま生活協同組合／浜松市遺族会／愛川町遺族会／庄原市戦没者遺族会／館林市遺族会／蔵持地区まちづくり委員会／株式会社麗人社

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。入場者の状況は以下の通りである。

上 演 月	入 場 者
令和6年 5月25日	87人
7月27日	73人
9月28日	68人
11月23日	66人
令和7年 1月25日	56人
3月22日	109人
合 計	459人

5 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和6年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。収蔵機能が改善し収蔵スペースが確保された段階で、資料収集を再開する予定である。

収蔵資料数は次表の通りである。(令和7年3月末現在)

寄 贈 資 料	46, 254点
購 入 資 料	14, 641点
厚生労働省からの無償貸付資料	3, 243点
合 計	64, 138点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和6年度は23点のポスター資料の修復および脱酸処理と、7点の絹本版画および28点の版画の修復をおこなった。

6 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作

巡回特別企画展の開催を予定している都道府県に関連する、戦中・戦後の労苦体験をされた方々の証言を聞き取りし、撮影・制作した「オーラルヒストリー」を巡回特別企画展会場で上映している。

令和6年度は、巡回特別企画展の開催地である京都府に関連した「オーラルヒストリー」を撮影した。

作品タイトル	証言者
京都にも戦争があった	浜村 淳

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和6年度に対応したレファレンスは291件であった。内容は多岐にわたるが、特別企画展の内容に関連して慰問袋に関する内容や、家族や親族の軍歴、戦時中の暮らしや街並みに関する写真の調査などの他、放送・出版関係者からの時代考証に関するレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成27年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2～3カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、令和6年度は巡回特別企画展を開催した大分県、京都府を含め5府県の関連資料を紹介した。

継続企画以外では、NHK連続テレビ小説『虎に翼』に関連して「華族～昭和を生きた貴族階級の人々～」、NHKの前身の一つである社団法人東京放送局（JOAK）が設立されてから100年にあわせて「ラジオとともに」の他、「疎開ってなあに？」（学童集団疎開実施から80年）、令和7年に入ってから「終戦前後の地震」（戦後80年）等、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、特別企画展「昭和を駆けた超特急～燕（つばめ）そして新幹線へ～」 「慰問 銃後からのおくりもの」、写真展「失われゆく昭和の仕事」、資料公開コーナー「白球の軌跡～人々を魅了した野球～」 「夢の超特急～東海道新幹線開業60周年～」等の関連資料を紹介した。

令和6年7月20日（土）から9月8日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布し、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にしたテーマ別の「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。特別企画展「慰問 銃後からのおくりもの」に関連したワークシートの他、過去に作成した「戦時下の衣服」「学校生活」「空襲」「くらしの道具」「動物園と戦争」、大人を対象にした「図書室ワークシート」とあわせて7種類を配布したところ、約750枚配付し340枚の提出があった。ワークシートに挑戦した子どもたちには、図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和7年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した絵画展「戦争になるとどうなるの？ マンガ・挿絵で見る戦争体験」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携を図った。

⑤ ブックリストの作成

開館25周年を記念し、「読んで学ぼう戦中・戦後の暮らし」と題して7階常設展示室の戦中の暮らしに関する各ブースに沿った司書おすすめの本を紹介するブックリストを作成した。常設展示室を見学した方、これから見学する方が、紹介本を読んで戦中の暮らしについて理解を深められるような内容とした。なお、6階常設展示室に沿った戦後の暮らしに関するブックリストは令和7年度に作成予定。

⑥ ホームページ

図書室の紹介ページでは、「ちょこっと所蔵資料」と題して開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内でのテーマ別の資料紹介についても随時情報を更新し、利用を促している。

⑦ 蔵書点検

令和7年2月25日（火）から3月10日（月）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び4階書庫・地下書庫内の雑誌を重点的に点検、必要に応じて蔵書の移動を行い、破損が著しい図書の修理や製本を行った。

⑧ 利用状況

令和6年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和6年4月	1, 102	213	816
5月	1, 225	289	1, 286
6月	998	210	826
7月	1, 233	247	1, 002
8月	1, 526	252	986
9月	1, 342	243	987
10月	953	243	994
11月	1, 361	234	858
12月	1, 345	250	1, 001
令和7年1月	782	239	1, 147
2月	785	210	1, 080
3月	745	235	999
合 計	13, 397	2,865	11, 982

令和6年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	119	2, 846
哲学	31	15
歴史	1, 290	411
社会科学	2, 355	1, 059
自然科学	26	124
技術・工学・工業	339	409
産業	189	112
芸術	258	1, 074
言語	26	0
文学	951	285
合 計	5, 584	6, 335

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」分野では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の利用内訳は、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌「総記」分野が最も多く、次いで「芸術」「社会科学」分野となった。「芸術」分野ではスポーツと映画関係が、「社会科学」では図書と同様に国防・軍事関係が多かった。

（2） データ管理

収蔵図書の書誌及び目次データは、随時点検、追加入力および修正作業を進

めている。令和6年度は令和5年度に受け入れた図書・雑誌1,057冊の書誌及び目次データの入力と装備を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和6年度は138冊の破損本を修理した。

劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に例年職員業務研修に参加している。

令和6年度は国立国会図書館資料保存研修、日本図書館協会主催「第110回全国図書館大会」と「第26回図書館総合展」にはオンライン視聴参加し、業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、ゴールデンウィーク期間には、写真展「失われゆく昭和の仕事 一戦中・戦後の街頭風景」の広報及び昭和館への興味・関心を高め、来館につなげることを目的として、SNSを使ってクイズ形式で映像・音響室の資料を紹介した。写真展の内容に関連する写真、映像、SPレコード資料に関するクイズを投稿し、翌日の解答投稿時には解答だけでなく資料に付随するエピソード等も紹介し、昭和館デジタルアーカイブへのリンクを貼り、他の資料への興味をつなげるようにした。

夏休み期間中には、小・中学生向けワークシートの配布を実施し、参加者にはしおりの記念品を贈呈した。

(1) 資料整理、デジタル化

令和6年度は以下の資料のデジタル化を行った。順次データベースに登録し、資料情報の整理を終えたものから公開する。

資料内容	点数	受入年度
師岡宏次撮影写真のネガコレクション	554点	令和元年
愛児の家所蔵写真（ネガ資料）	2,611点	令和6年
SPレコード（音源化およびレーベル画像撮影）	500枚 (1000点)	平成11年
短編映画（16ミリフィルム）	22点	平成9年
短編映画（16ミリフィルム）	15点	平成20年

学童疎開・昭和２０年代後半の街並み等 (８ミリ及び１６ミリフィルム)	６点	令和６年
---------------------------------------	----	------

(２) 昭和館ＳＰレコード鑑賞会

昭和館が収蔵するＳＰレコード資料を紹介するため、令和５年の第１回に続き、１階ニュースシアターにおいてＳＰレコード鑑賞会を開催した。

第２回目

日時：令和６年１０月１３日（日）

内容：生誕１００年をむかえた俳優の高峰秀子（１９２４～２０１０）が戦中に収録した音源をはじめ、戦前から戦後にかけて発行されたＳＰレコード６点をアナログ再生した。

参加者：４５人

第３回目

日時：令和７年１月１１日（土）

内容：戦前・戦後の「東京」をテーマにした「東京行進曲」「東京キッド」などの流行歌や映画の主題歌、戦中の「代用品」をテーマにした漫才など、戦前から戦後にかけて発行されたＳＰレコード６点をアナログ再生した。

参加者：３５人

３ ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週４作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」では、令和６年度は２１８本のニュース映画と一部抜粋をした３７作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和７年２月５日（水）から１１日（火・祝）に平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催した特別展示「戦争になるとどうなるの？ マンガ・挿絵で見る戦争体験」の連携企画として、戦中の子どもたちの様子を伝えるニュース映画等を紹介し、連携をはかった。

４ 収蔵資料

(１) 図書資料の収蔵状況

令和６年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（令和７年３月末現在）

国民生活関係図書	75, 254冊
戦争に関する基本的図書	24, 404冊
独自資料	35, 980冊
その他	11, 690冊
合 計	147, 328冊

<令和6年度の主な受入資料の内訳>

- 国民生活関係 1,234冊
 - ・当時刊行された雑誌類や生活体験記等
 - 『新修大阪市史 史料編 第21巻 近代 8 (戦時編)』
 - 『皇軍将兵慰問状綴』
 - 『屋外・住宅・商店・工場 燈火管制讀本』等
- 戦争に関する基本的図書 230冊
 - ・太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等
 - 『講和への歩み』
 - 『第三一師団第一野戦病院』
 - 『夕陽千萬峰 歩六五第二中隊史』等
- その他 1冊
 - ・寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
- 定期購読誌
 - 『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和6年度は、社会福祉法人愛児の家が所蔵していた写真等を入手し、館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和6年度の主な受入資料>

- (1) 記録写真 4, 207点
 - 師岡宏次氏撮影写真（昭和10年～40年頃の東京の写真）
 - 愛児の家所蔵写真（終戦直後から昭和30年代の戦災孤児の写真）
 - 昭和18年の東京市第四日暮里国民学校の卒業アルバム
 - 旧制新潟高等学校六花寮の写真（昭和18年から20年頃）

鎌倉市立大船小学校の児童の集合写真（昭和32年撮影） 他

（2）映像資料 6点

長野県北佐久郡芦田村へ疎開した堀之内国民学校の記録映像等

（3）音響資料 424点

個人寄贈の慰問や恤兵関連のSPレコード 他

<令和7年3月末現在の公開データ件数>

	データ件数
静止画資料	36,944件
動画資料	3,656件
音響資料	15,814件
計	56,414件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内１１０カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

1 運用管理

（１）システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。

令和６年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は５８１，５４７件、月平均約４８，４６２件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和６年４月	2,838	2,814	33,701	8,916	3,152	65	51,486
５月	3,942	3,108	32,691	10,348	3,605	99	53,793
６月	3,588	1,930	26,966	8,778	3,260	86	44,608
７月	3,812	1,918	28,289	8,637	4,986	123	47,765
８月	3,502	1,966	31,806	11,033	8,326	112	56,745
９月	3,169	1,845	26,373	8,202	3,214	91	42,894
１０月	4,128	2,443	27,661	7,887	2,523	69	44,711
１１月	3,019	2,110	32,813	10,512	2,467	130	51,051
１２月	3,828	2,549	22,808	7,678	3,592	185	40,640
令和７年１月	5,459	1,896	36,156	6,445	2,198	82	52,236
２月	2,445	1,740	33,293	6,956	3,544	178	48,156
３月	2,682	1,875	31,534	7,854	3,410	107	47,462
合 計	42,412	26,194	364,091	103,246	44,277	1,327	581,547

（２）データベース運用管理

図書室及び映像・音響室では、収蔵資料のデジタル化、記録資料のデータベース化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

【総合データベース】

○ 図書資料データベース

図書室が収蔵する、図書、雑誌の書名・著者名・雑誌名等の書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力し、検索ができる目録データベース。図書、雑誌以外では、地図、海図についても図名その他、地域や海域からの検索することができる。図書、雑誌、地図、海図の全ての資料の横断検索も可能である。

○ 映像・音響資料データベース

映像・音響室が収蔵する写真、映像及び音響資料(S P レコード)の資料情報(タイトル、年代、作曲者名等)をデータベース化し、検索・閲覧(視聴)できるデジタルアーカイブ。写真、映像、音響資料の横断検索も可能である。

【個別データベース】

○ デジタルライブラリー

年鑑と雑誌をデジタル化し、検索・閲覧できる昭和館オリジナルのデータベース。収録された雑誌間での横断検索も可能である。
現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文藝春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」「少国民新聞(東日版)」「スポーツニッポン」「教材ニュース」「文化ニュース」等

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデジタル化し、検索・閲覧できるオリジナルデータベース。キーワードによる横断検索も可能である。

(3) デジタルアーカイブの運用

令和5年4月1日から「昭和館デジタルアーカイブ」で昭和館の所蔵資料の情報を公開している。

令和6年度のアクセス総数は1,387,342件、月平均約116,000件であった。

令和6年度は、デジタルアーカイブをさらに充実させるため改修を行い、これまで目録検索のみだった図書と雑誌についても、デジタルアーカイブコンテンツを追加し、一部資料の閲覧を可能にした。また、S P レコードについても一部音源と盤面画像を公開し、目録検索からデジタルアーカイブに移行した。

(4) ホームページ運用管理

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展

や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会、SP レコード鑑賞会、開館 25 周年記念事業、バーチャル昭和館、クイズ、なぞ解きといった催し物の案内に加えて、次世代の語り部事業についても定期講話会の最新情報発信のため、随時更新を行った。

英語版サイトを制作して海外からの来館促進を図った。

令和 6 年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時（or 導入時）からの累計
ホームページ	154, 107	12, 842	4, 707, 198

（５）ＳＮＳの活用

広報の一環として、X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube での情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和 7 年 3 月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

X（旧Twitter） 閲覧者数	Facebook閲覧者数	YouTube視聴回数
1 5 2, 2 0 4	1 9, 2 3 2	7 4 8, 9 6 2
ポスト数	投稿数	
2 5 4	2 0 9	

（６）Wi-Fi 提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために 1 階ロビー、3 階研修室、4 階図書室、5 階映像・音響室、7 階・6 階常設展示室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

令和 6 年度は、疎開や空襲体験など、戦中・戦後の生活について 4 名の聞き取りを行い、4 作品を制作した。

令和 6 年度の制作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
甲府空襲の惨状から“みんななかよく”を目指して	辻 信太郎
苦しいときもおもしろがってこそ人生	林家 木久扇
女子挺身隊での勤務そして疎开学童と過ごした日々	砂金 元子
特別科学組での教育と城北空襲で見た光景	大久保 治男

Ⅳ 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

- ① 「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、教育委員会、東京特別区、各省庁図書館等に対して送付した。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和のくらし研究（紀要）」も併せて送付した。
- ② 令和6年度は、東京都の市区校長会の協力を得て、同年6月に23区9市1,047校に昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより41号」、「昭和館パンフレット・リーフレット」、「貸出キット」、「次世代の語り部講話派遣」、「作文コンクール」の各チラシを配布および送付し、来館促進を図った。
あわせて千代田区の小学校の全生徒、千代田区を除く22区と9市の小学校5年生に「昭和館だより第41号」を送付した。
- ③ また、令和6年11月に全国の公立小・中・中等教育学校に「昭和館だより42号」を送付した。さらに11月下旬までに来館した中学校・高等学校に「中学生・高校生ポスターコンクール」のチラシ、ポスター等を送付し周知を図った。
- ④ また、東京都小学校社会科研究会の協力を得て「昭和館だより42号」「貸出キット」「作文コンクール」「次世代の語り部講話派遣」のチラシを配付し、広報に努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館事業内容のPRのため、東京メトロ九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームの電飾掲示板に掲示し事業内容のPR活動を行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとか」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報等に当館の紹介記事を掲載した。

その他、読売新聞、東京新聞、毎日新聞、日本教育新聞等に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより第41号」を令和6年6月に、第42号を同年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関へ送付した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継

いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を次世代に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を育成する事業を平成28年度から開始した。

1期生から3期生まで募集を行い、月1回のペースで3年間の研修を実施した。現在「次世代の語り部」として19名が委嘱を受け、講話活動を行っている。

② 事業の実施状況

ア 令和6年度は昨年度に引き続き、月1回の定期講話会をはじめ、小・中学校や自治体等からの要請を受け、講話活動を行った。

講話のテーマは以下のとおり。

	テーマ	対象
1	戦中の小学生	小学校高学年から中学生
2	学校生活と子どもたち（戦前・戦中編）	小学校6年生から中高生
3	軍事郵便を聞く	中学生から一般
4	戦争と学生	高校生から一般
5	軍国少年の戦中・戦後 ～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～	小学校高学年 中学生から一般
6	空白の3年8か月 ～天気予報と戦争～	中学生から一般
7	学童疎開 ～戦時下の親元を離れての集団生活～	小学校高学年
8	白米が憧れだった頃 ～戦中・戦後の人びとの米への強い思い～	一般
9	ぼくの家にも戦争があった	小学校中学年から中学生
10	沖縄の光と影 ～今を支える戦争の記憶～	小学校高学年から中学生
11	戦災孤児たちの願い ～もしも魔法が使えたら～	小学校6年生から中学生
12	戦時下の中学生 ～学生生活と学徒勤労動員～	小学校6年生から一般
13	残された家族 ～家族を戦争で失くした人たちの思い～	小学校5年生から一般
14	国策紙芝居で知る銃後の生活	小学校6年生から一般
15	聞こえない人と戦争	小学生から中学生
16	熱田空襲下の学徒動員体験記 ～航空機製造へ舵を切った愛知時計電機～	大学生から一般
17	戦中の子どもの学校生活 ～昭和8年生まれの子どもたち～	小学校高学年
18	フミちゃんと沖縄戦 ～それでも私は生きる～	大学生から一般
19	少女の戦中・戦後のくらし～島本京子さんの体験から～	小学校6年生から中学生
20	戦争と動物 ～戦争で犠牲になった動物たち～	小学校6年生から一般

イ 定期講話会

毎月第一日曜日に昭和館ニュースシアターで定期講話会を実施した。各回2名の次世代の語り部が講話を行い、参加者数は以下のとおり。

回	開催日	参加者数
第35回	令和6年 4月 7日	22人
第36回	5月 5日	20人
第37回	6月 2日	14人
第38回	7月 7日	36人
第39回	8月 4日	89人
第40回	9月 8日	20人
第41回	10月 6日	23人
第42回	11月 3日	18人
第43回	12月 1日	35人
第44回	令和7年 1月12日	24人
第45回	2月 2日	15人
第46回	3月 2日	20人
参加者数合計		336人

ウ 派遣講話

学校や自治体等からの要請を受けて派遣講話を行っている。
実施状況は以下のとおりである。(令和7年3月末現在)

派遣先	派遣件数	参加者数
学校関係	53	4,848
自治体関係	13	447
その他	6	162
合 計	72	5,457

<派遣先> (派遣順・昭和館開催を含む)

【学校関係】 聖ヨゼフ学園小学校 6 年生／府中市立日新小学校 6 年生／**CGK** インターナショナルスクール 4・5 年生／西東京市立東伏見小学校 6 年生／世田谷区立砧小学校 6 年生／八王子市立宇津木台小学校 6 年生／八王子市立宇津木台小学校 6 年生／杉並区立第六小学校 5 年生／江東区立豊洲西小学校 3 年生／足立区立足立小学校 6 年生／杉並区立済美小学校 6 年生／足立区立湊江第一小学校 6 年生／上越市立北諏訪小学校 6 年生／葛飾区立奥戸小学校 6 年生／新宿区立戸山小学校 6 年生／静岡市立中田小学校 6 年生／品川区立鮫浜小学校 6 年生／荒川区立第三峡田小学校 6 年生／横浜市立潮田小学校 6 年生／練馬区立立野小学校 6 年生／板橋区立富士見台小学校 6 年生／蕨市立中央東小学校 6 年生／東村山市立大岱小 6 年生／新宿区落合第二小学校 6 年生／吉川市立旭小学校 6 年生／文京区立小日向台町小学校 6 年生／江戸川区立下鎌田東小学校 6 年生／墨田区立中川小学 5 年生／船橋市立法典西小学校 6 年生／早稲田実業学校初等部 6 年生／文京区立駕籠町小学校 6 年生／学芸大学附属竹早小学校 3 年生／立川市立松中小学校 6 年生／潮来市立日の出中学校 3 年生／横浜市立ろう特別支援学校中学部／湘南学園中学校 3 年／江東区深川第三中学校 2 年生／高松市立国分寺中学校 1～3 年生／相模原市立中澤中学校 2 年生／三浦市立南下浦中学校 2 年生／大田区立大森第十中学校 2 年生／東村山市立東村山第七中学校 2 年生／小金井市立南中学校 3 年生／横浜市立義務教育学校霧が丘学園 7 年生／横浜市立義務教育学校霧が丘学園 8 年生／武蔵野高等学校 2 年生／目黒学院高等学校 2 年生／豪州ニューサウスウェールズ州高校生研修／荒井学園新川高等学校 2 年生／聖心ウルスラ学園高等学校 2 年生／荒井学園高岡向陵高等学校 3 年生／二松学舎大学 2 年生 (2 回)

【自治体関係】 さいたま市大宮区シニアクラブ女性部／台東区役所総務課／江東区立子どもプラザ図書館／港区立赤坂図書館／狛江市岩戸児童センター／多摩市平和展／桶川市民生委員・児童委員協議会／相模原市上鶴間公民館／自治労東京都本部 **OBG** 会／富士見市立図書館ふじみ野分館／市原市立国分寺公民館 (市原市立国分寺台西小学校 6 年生)／四街道市立図書館／渋谷区文化振興課交流推進係

【その他】 まちライブラリー@ブックハウスカフェ／全印刷局労働組合 東京支部／まちライブラリー@ブックハウスカフェ／ホームックス株式会社／手話サークル輪の会／舞鶴引揚記念館

エ 昨年度に引き続き、講話の充実と「次世代の語り部」としての知識や意識の向上をはかるため、他施設の伝承者との交流や語り部間の意見交換を行う等、フォローアップ研修を実施した。

オ 開館25周年を記念して、高校生・大学生を対象としたイベントを開催した。

タイトル

「次世代の語り部と考える“戦争を語り継ぐこと” in 昭和館」

開催日時

令和6年11月10日（日） 13:30～15:45

参加者数

学生19名、次世代の語り部15名

内 容

- ・常設展示室の見学（同行説明）
- ・次世代の語り部の講話『軍国少年の戦中・戦後～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として』
- ・次世代の語り部とのグループトーク

（5） 第23回昭和館作文コンクール

昭和館または巡回特別企画展を見学および、「次世代の語り部」講話を聴く、あるいは昭和館 YouTube でオーラルヒストリー（証言映像）を視聴した小・中学生を対象に実施した。

今年度は、令和7年1月6日（月）消印有効で締め切り、団体応募が22校（小学校11校、中学校11校）654作品、個人が17作品（小1～6・中1～3）、計671作品の応募があった。内容の題材は見学が286作品、オーラルヒストリーが353作品、次世代の語り部講話が26作品、その他6作品であった。

審査の結果、厚生労働大臣賞・昭和館館長賞、優秀賞8作品を決定した。3月上旬に賞状及び賞品の送付、3月下旬にホームページで各賞の発表を行った。

（6） 第17回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計69作品の応募があった。

審査の結果、富山第一高等学校 高見ことなさんの作品が最優秀賞に（別掲）、優秀賞（別掲）に5作品、佳作に10作品（別掲）が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館紀要『昭和のくらし研究』第23号を令和7年3月に刊行した（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第23号 目次	
昭和初期の都市給水事情－東京市の井戸調査を中心に－	大正大学文学部歴史学科教授 松本洋幸
戦時体制下の東京の浴場業－昭和十年～昭和二十年－	横浜都市発展記念館主任調査研究員 吉田律人
写真家 田沼武能氏の青春時代－オーラルヒストリー聞き取り調査から－	昭和館図書情報部 新城敦
自治体の戦争体験における一般性と地域固有性 －東京都府中市の事例分析から－	昭和館学芸部 土屋 心

昭和のくらし研究第23号



3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和7年3月31日時点 50音順、敬称略)

委員長	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
委 員	石 井 正 広	(全国小学校社会科研究協議会会長新宿区立四谷小学校校長)
〃	宇 野 裕	(株式会社トーカイ社外取締役監査等委員)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館研究部教授)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)
〃	山 田 邦 夫	(外務省大臣官房総務課公文書監理室レコードマネージャー)

※令和6年10月18日加納正弘委員退任。

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに25回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和7年3月31日時点 50音順・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委 員	江 田 肇	(一般財団法人日本遺族会常務理事・埼玉県遺族連合会会長)
〃	加 藤 聖 文	(国文学研究資料館准教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(目黒区立第九中学校教諭)
〃	増 田 弘	(立正大学名誉教授)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)

5 インターンシップ

高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ(職業体験)」(ハローワーク飯田橋より依頼)は、コロナ禍以降、依頼がなくなっている。今後は、依頼があった場合受け入れられるよう準備する。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第26回会議を令和6年6月5日（水）に開催
第27回会議を令和7年2月28日（金）に開催
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和6年7月20日（土）～9月8日（日）
参加者数：6,615人
- (3) 絵画展「戦争になるとどうなるの？ マンガ・挿絵で見る戦争体験」を開催
開催期間：令和7年2月5日(水)～11日(火・祝)
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー
- (4) 巡回特別企画展の相互協力
大分県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。
- (5) 開館25周年記念事業

平成11年3月27日の開館から、令和6年3月27日（水）に開館25周年を迎えたことから、令和6年度は以下の記念関連事業・イベント等を実施し、昭和館の認知度を高めることに努めた。

（開館25周年記念事業）

- ① 開館記念日終日常設展示室無料及び先着250組限定粗品贈呈等
開館25周年記念日である令和6年3月27日（水）は、終日常設展示室を無料開放し、先着250組に粗品を贈呈した。来館者は1,676人を数えた。
- ② 開館25周年記念スタンプラリー（達成度に応じた粗品贈呈）
常設展示室への入室を条件とした館内誘導策として下記期間で実施した。

実施期間：令和6年3月28日（木）～12月27日（金）
（景品交換は令和7年1月末まで）

○配布状況、過去との比較（令和6年12月27日現在）

	交換数			台紙	
	参加賞	チャレンジ賞	パーフェクト賞	配布数	印刷数
開館25周年	669	1,790	41	4,436	6,000
開館20周年	169	107	31	771	3,000

※開館20周年時は、常設展示室入室を条件に含んでいない。

③ 特別映画上映会

「映画で見るさまざまな疎開」と題して特別映画上映会を2日間にわたり開催した。保育園疎開をとりあげた「あの日のオルガン」（平成30年製作）、図書館の蔵書疎開をとりあげた「疎開した40万冊の図書」（平成25年製作）の2作品を上映した。

- ・開催期間 令和6年9月14日（土）～15日（日）
9月15日（日）のみ午前・午後2回上映
- ・会場 昭和館3階研修室
- ・入場者数 194人

④ 落語上演会

「落語で学ぶ戦中・戦後の国民の暮らし」と題した落語上演会を開催した。東京大空襲を体験された落語家柳家さん八氏による実話をもとにした新作落語「東京大空襲夜話」を上演。

上演の前に当館所蔵の東京大空襲を伝える映像を放映するとともに、館内施設（7・6階常設展示室、5階映像音響室、4階図書室）への誘導を促し、東京大空襲をはじめ当時の国民が経験した労苦に対する理解を深める工夫に努めた。

- ・開催期日 令和6年6月30日（日） 午後2時～4時
- ・会場 昭和館 3階 研修室
- ・入場者数 130人

⑤ 開館25周年記念メモリアル懸垂幕掲揚

昭和館正面に開館25周年メモリアル懸垂幕を令和6年1月18日より掲揚し、広報に努めた。

⑥ 4月以降、毎月25日先着25組限定粗品贈呈

4月以降、12月まで毎月25日（休館日11月25日を除く）に先着25組に粗品を贈呈し、更なる周知や再訪に繋げた。

⑦ 高校生・大学生を対象とした語り部との交流企画

「次世代の語り部と考える“戦争を語り継ぐこと” in 昭和館」開催

※詳細は22頁参照

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 昭和館開館25周年記念 特別企画展

「慰問 銃後からのおくりもの」

戦時中、故郷を遠く離れて戦地に立つ兵士たちに対し、慰問品を送ることが「銃後のつとめ」のひとつとして奨励された。慰問品として手紙のほか、嗜好品や娯楽品など、多様な物が送られた。さらには手紙や物品だけでなく、兵士や傷病兵を訪ねて演芸などを披露する慰問団も結成され、様々な興行が行われた。

本企画展では、戦地へ送られた手紙や物品、慰問団の活動など、戦中の慰問について紹介した。

開催期間：令和6年7月20日（土）～9月8日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：10,010人

（228人／日）

<展示構成>

プロローグ 戦地へおくるもの

I 慰問文

II 慰問品

III 慰問団

昭和館開館25周年記念 特別企画展

慰問
銃後からのおくりもの

入場 無料

2024年
7月20日(土)～9月8日(日)

会場 昭和館3階特別企画展会場
観覧時間 10時～17時30分(入館は17時まで)
休館日 月曜日(8月12日は閉館、8月13日は休館)
後援 千代田区、千代田区教育委員会

昭和館
TEL: 03-2322-2577 / FAX: 03-2322-2575
URL: <https://www.shinwakankou.go.jp/>
X: <https://twitter.com/shinwakankou>
Facebook: <https://www.facebook.com/shinwakankou/>

2 特別企画展

「版画家が刻んだ昭和の彩り―館蔵版画集を中心に―」

昭和館には、昭和の情景をテーマとする版画集など、約**600**点の木版画が所蔵されている。

本企画展では、当館が所蔵する木版画の中から版画集に焦点を当てて、版画家たちが木版画に刻んだ昭和の情景を紹介する。

開催期間：令和7年3月15日（土）～5月11日（日）

前期：令和7年3月15日（土）～4月13日（日）

後期：令和7年4月15日（火）～5月11日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

後 援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：3,663人（262人／日）

※令和7年3月末まで

<展示構成>

プロローグ 木版画前史

I. 近代化の風景を刻む

II. 木版画による報国活動と版画集の制作

III. 戦前への回顧と版画家たちの戦後復興

エピローグ



3 1階ロビーでの資料展示

1階ロビーで以下のタイトル及び期間で実物資料のミニ展示を実施した。

令和6年1月16日～7月28日「ままごとおもちゃ」

令和6年8月1日～12月27日「ひとときを楽しむ―珈琲―」

また、令和7年1月に実施した展示替え工事に伴い、常設展示室で展示していた、鳥取県在住の人形作家安部朱美さんの人形作品「青空教室」をロビーに移設した。

4 写真展

「失われゆく昭和の仕事 ―戦中・戦後の街頭風景―」

開催期間：令和6年3月12日（火）～6月30日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：昭和の時代、多種多様な仕事
が生まれては衰退し、街頭から
消えていった。今では見か
けることが少なくなった昭和
の仕事を紹介した。

入場者数：33,100人
（338人／日）
（内、令和6年度は
27,044人）



5 昭和館開館25周年記念写真展

「写真家たちがみつめた戦前・戦中」

開催期間：令和6年7月6日（土）～10月27日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：昭和館で所蔵している、公益
社団法人日本写真家協会
（JPS）の報道写真から戦前・
戦中の写真を紹介した。

入場者数：23,870人
（244人／日）



6 昭和館開館25周年記念写真展

「石川光陽写真展【第1期】昭和の幕開け・モダン東京」

開催期間：令和6年11月2日（土）～令和7年2月24日（月）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：警視庁で写真撮影を担当していたカメラマン、石川光陽の作品を3期にわたって紹介する。第1期では、昭和初期から日中戦争が始まる昭和12年にかけて撮影した写真を展示した。

入場者数：18,145人
（197人／日）



7 戦後80年特別企画写真展

「石川光陽写真展【第2期】戦時下の東京」

開催期間：令和7年3月1日（土）～令和7年6月29日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：警視庁で写真撮影を担当していたカメラマン、石川光陽の作品を3期にわたって紹介する。第2期は日中戦争が始まった昭和12年から20年8月15日終戦の頃までに撮影された作品を展示する。

入場者数：7,421人
（286人／日）
※6年3月末時点



8 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する写真・映像資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーにコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和6年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第92回	第16回中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品展示	令和6年4月2日（火） ～6月30日（日）
第93回	白球の軌跡 ～人々を魅了した野球～	令和6年7月2日（火） ～9月29日（日）
第94回	夢の超特急 ～東海道新幹線開業60周年～	令和6年10月1日（火） ～12月27日（金）
第95回	村岡信明が描いた死と生、そして鎮魂 ～東京大空襲の記憶～	【第1期】 令和7年1月5日（日） ～2月16日（日） 【第2期】 令和7年2月18日（火） ～3月30日（日）

1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和6年度)

	常設展示室						映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースコーナー	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐらっとバス	無料	合計					
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114
令和3年度	8,714	1,366	10,939	848	2,047	23,914	12,246	5,832	31,583	8,888	82,463
令和4年度	14,955	2,728	26,768	1,361	4,638	50,450	19,239	9,351	52,320	12,055	143,415
令和5年度	19,416	3,186	28,402	1,669	5,908	58,581	27,841	11,940	51,025	19,783	169,170
令和6年度	19,815	3,509	23,961	1,545	5,625	54,455	32,912	13,397	114,916	59,194	274,874
合 計	672,591	74,849	653,413	27,538	131,176	1,559,567	800,054	449,554	1,709,553	2,511,654	7,030,382

2 令和6年度利用者実績

(単位：人)

	常 設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特 別 企画展等	合 計	特別企画展等内訳
令和6年 4月	4,152	2,828	1,102	10,523	23,486	42,091	4/1 (3/9～5/6) 特別企画展期間 4/1 (3/12～6/30) 写真展期間
5月	5,648	3,511	1,225	7,017	11,831	29,232	～5/6 特別企画展期間 ～6/30 写真展期間 5/25 紙芝居定期上演会
6月	7,695	3,171	998	4,585	11,315	27,764	6/19～6/30 大分県巡回特別企画展期間 ～6/30 写真展期間
7月	5,053	2,683	1,233	4,519	7,415	20,903	7/6～ 写真展期間 7/20～ 特別企画展期間 7/20～ 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 7/27 紙芝居定期上演会
8月	5,418	2,721	1,526	5,423	15,735	30,823	特別企画展期間 写真展期間 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間
9月	4,754	2,427	1,342	4,969	7,088	20,580	～9/8 特別企画展期間 ～9/8 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 9/28 紙芝居定期上演会
10月	4,199	2,109	953	3,723	5,039	16,023	～10/27 写真展期間
11月	6,981	3,576	1,361	4,825	5,581	22,324	11/2～ 写真展期間 11/23 紙芝居定期上演会
12月	6,560	3,244	1,345	4,172	8,447	23,768	12/18～12/27 京都府巡回特別企画展
令和7年 1月		1,946	782	2,943	3,965	9,636	1/5～2/28 常設展示室休室 1/25 紙芝居定期上演会
2月		2,021	785	3,130	3,801	9,737	1/5～2/28 常設展示室休室 ～2/24 写真展期間
3月	3,995	2,675	745	3,365	11,213	21,993	3/15～5/11 特別企画展期間 3/1～6/29 写真展期間 3/22 紙芝居定期上演会
合 計	54,455	32,912	13,397	59,194	114,916	274,874	

3 常設展示室入場者数

総 数	区 分	種 別	人 数	割合 (%)
54,455人	有料 24,869人	高・大学生	3,509人	6.4
		一 般	21,360人	39.2
	無料 29,586人	小・中学生	23,961人	44.0
		視察者等	4,086人	7.5
		心身障害者	1,284人	2.4
		未就学児	255人	0.5

(参考) 団体による来館学校数

総 数	区 分	学校数	割合 (%)
302校	小学校	249校	82.5
	中学校	34校	11.3
	高 校	11校	3.6
	専門学校	2校	0.7
	大 学	6校	2.0

4 来館団体御芳名

※100 名以上の団体のみ記載

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
5月2日	市川市立妙典小学校	112人	11月22日	江東区立深川第三中学校	113人
5月16日	入善町立入善西中学校	106人	11月27日	足立区立綾瀬小学校	130人
5月23日	横浜市立緑ヶ丘中学校	151人	11月28日	西東京市立中原小学校	137人
5月23日	中央区立佃島小学校	131人	11月29日	市川市立鬼高小学校	117人
5月24日	横浜市立荏田南中学校	214人	11月29日	杉並区立高井戸第二小学校	117人
5月24日	江戸川区立葛西小学校	147人	12月5日	杉並区立杉並第二小学校	115人
5月28日	江戸川区立一之江第二小学校	136人	12月6日	船橋市立法典小学校	154人
5月29日	海老名市立柏ヶ谷中学校	155人	12月6日	桶川市立桶川小学校	111人
5月30日	岡崎市立六ツ美中学校	154人	12月10日	武蔵野市立境南小学校	104人
6月6日	川崎市立栗木台小学校	100人	12月13日	習志野市立屋敷小学校	137人
6月6日	目黒区立大岡山小学校	119人	12月17日	横浜市立潮田小学校	108人
6月6日	朝来市立和田山中学校	103人	12月17日	北区立都の北学園	113人
6月11日	大田区立馬込小学校	110人	12月19日	江東区立明治小学校	128人
6月14日	川崎市立中野島中学校	111人	12月20日	江東区立南陽小学校	118人
6月21日	市川市立塩焼小学校	130人	12月24日	江東区立浅間堅川小学校	140人
6月25日	世田谷区立中丸小学校	109人	3月5日	早稲田実業学校初等部	106人
6月25日	江戸川区立鎌田小学校	107人	3月6日	葛飾区立新小岩中学校	122人
6月25日	四街道市立和良比小学校	125人	3月7日	暁星小学校	119人
6月27日	船橋市立葛飾小学校	199人			
6月28日	湘南学園中学校	109人			
6月28日	葛飾区立青戸小学校	121人			
7月2日	江戸川区立西葛西小学校	111人			
7月2日	杉並区立浜田山小学校	151人			
7月3日	相模原市立大野南中学校	267人			
7月4日	大田区立高畑小学校	108人			
7月10日	港区立青南小学校	101人			
7月10日	文京区立千駄木小学校	140人			
9月5日	小金井市立東小学校	124人			
9月13日	板橋区立志村坂下小学校	103人			
9月19日	名張市立桔梗が丘中学校	161人			
9月20日	江戸川区立南葛西第二小学校	111人			
9月27日	墨田区立二葉小学校	108人			
9月27日	三鷹市立井口小学校	104人			
10月10日	足立区立足立小学校	101人			
10月23日	長泉町立長泉小学校	176人			
11月7日	静岡市立千代田小学校	116人			
11月19日	江東区立豊洲北小学校	161人			
11月19日	八潮市立大原小学校	105人			

5 第23回 昭和館作文コンクール

厚生労働大臣賞

心の苦しみ

板橋区立志村坂下小学校 6 年生

小林 純一郎

僕は9月に社会科見学として昭和館を訪れました。その時は、様々な展示物を見たり、体験したりしました。けれども、展示物から、それにどのような願いや思いがこもっているか、というところまで考えることは時間の都合上できませんでした。そのため、より細かいところまで見たいという気持ちが芽生え、再度来館することにしました。そのときは自分のペースでじっくり展示について考えることができたので、前に来たときとは違い、それぞれの展示物に込められた思いも伝わり、一つ一つに感動してしまいました。

展示物はたくさんありましたが、一番心に刺さったものは、中国へ従軍した兵士が妻や子供に宛てて書いた手紙です。その手紙には会えない家族への想いがつづられていて、戦争に行った兵士一人ひとりに帰りを待つ大切な人がいるのに、会いたくても会えないという苦しさを感じました。昭和館ではほかにも、地域別の戦没者数が書かれている地域別戦没者数概見図というのを見ました。その図によると、合計戦没者数は240万人でした。先程の手紙とつなげて考えてみると、240万もの人が、家族や友人に会いたくても会えずに悲しみながら死んでしまったと推察できます。

僕の曾祖父は、第2次世界大戦を経験しました。彼はすでに亡くなっていますが、戦争で彼が体験したことを詳細に記した自伝を残しました。それには、曾祖父が朝鮮とビルマの2箇所に合計8年間滞在したときのことについて書かれていました。8年間も戦争にかり出されていたということは、展示されていた手紙の兵士が感じていた家族に会えない苦しみを曾祖父も経験していたということだと思います。そう考えると、今まで他人事だと思っていた戦争が、僕の身近な人も含めた何千万人もの人々にトラウマを植え付ける、言い表せないほど悲惨なものだったことが身に染みてわかってきました。

現在では、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナなどたくさんの地域で戦争が起こっています。その戦争に参加している兵士たちは、国からの命令で戦いに行かされて大切な人と会うことができなくなっている状態の人がほとんどです。第2次世界大戦で戦争に参加した世界中の人々が体験したような苦しみを覚えている人が現代でもたくさんいるのでしょう。

戦争には、人の命だけでなく人の心までも壊す力があると思います。その戦争の恐ろしさ、悲惨さをこれからの世代にも語り継いでゆき、戦争をどのようにしたら止めることができるのかを考え続けていくことが世界から戦争をなくすための第一歩になるのではないかと思います。そのためにも、僕は今回昭和館に行ったことで得たこのような考えをこれからも忘れずに胸のうちに留めておきます。

昭和館館長賞

平和を紡ぐ

広尾学園小石川中学校 2 年生
古賀 英琳

私の祖父は現在 90 才の戦争経験者だ。祖父は、小学 5 年生だった 1944 年の秋から、東京から新潟へ、家族と離れ学童疎開していた。

疎開中は常にお腹が空いていて辛かったこと、疎開先の人たちに差別されて子供たちでハンガーストライキを起こしたこと、家に帰りたくてたまらなくて貨物列車に忍び込んで東京まで逃げ帰った子がいた話、終戦間近には学童疎開先近くの長岡も空襲に遭い、祖父たちは山奥へとみんなで逃げたことなど、時々、祖父は戦争体験を話してくれる。祖父が小学 6 年生の 1945 年 8 月 15 日に終戦の日を迎え、戦争が終わってもしばらくは殺されるかもしれないと、祖父は親戚と新潟で生活し、10 月にやっと東京へ戻ったそう。「死と隣り合わせ。疎開中はいつも空腹。人間らしい生活はできなかった。戦争は絶対にもう繰り返してはいけない。」と祖父は語る。

先日、昭和館を家族で訪れた。昭和館は戦争を追体験できる場所だった。昭和館の貴重な展示物を見ると、祖父の体験談、戦争というものの現実味を感じた。空腹に耐えられず疎開した児童が食べていた胃腸薬や、疎開中の食事など、当時の生活の様子が分かる展示、戦時中の様子が記録されたたくさんの写真など、飢えに苦しみ、常に死と隣り合わせという想像を絶する辛い思いをした人や命を失ってしまった人が大勢いたという事実胸が締め付けられた。

戦争は人が殺し合う残虐な行為だ。戦争は子供の命や自由までも簡単に奪ってしまう。人が人を殺すのは悪いこと。世界中の人が思いやりと優しさを持って、協力して戦争のない平和な世界を作らなければならない。昭和館のような施設に足を運んだり、体験談を聞いたり、本を読んだりして、戦争について学び、平和の大切さを考えることが重要だと、昭和館を見学して私は改めて思った。

私たちは戦争を実際に経験した人から直接話が聞ける最後の世代だ。祖父たちのように悲惨な経験をしてきた人たちの、平和な世界にしたいという強い願いを受け継ぎ、実現していくのが、私たちの使命だと思う。私の夢は児童文学作家になることだ。今日でもウクライナやガザ、アフガニスタンなど世界中で理不尽な紛争や内戦が絶えない。子供たちに、戦争の残酷さと平和の尊さを語り継ぐ言葉で、私は平和を紡いでいきたい。

6 第17回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
富山第一高等学校 高見ことな
【昭和の紙芝居】



優秀賞
兵庫県立龍野高等学校 高見 陽菜
【唯一の安心場所】



優秀賞
富山第一高等学校 鷹西 桜香
【大切な思い出】



優秀賞
浦和麗明高等学校 笹川 七夏
【代 償】



優秀賞
広島県立沼南高等学校 山根 美衣莉
【無事でよかった】



優秀賞
広島県立沼南高等学校 藤谷 託己
【午後の楽しみ】

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館(仮称)」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本龍太郎厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館(仮称)」建設の検討が進められた。

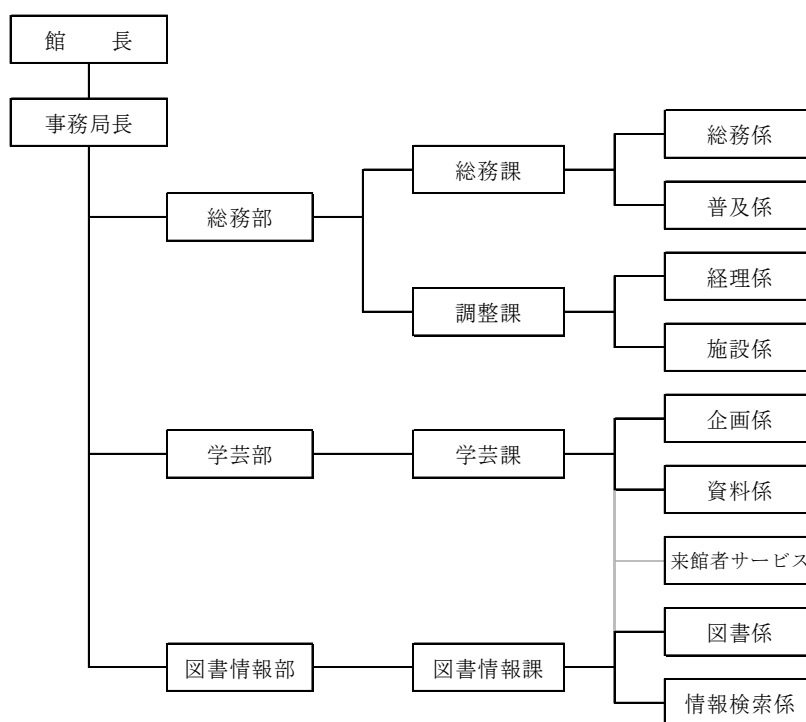
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館(仮称)」として厚生省(当時)予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S 造（鉄骨造）一部 S R C 造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員 （人）	避難施設	備 考
R 階	206.04	機械室		避難階段	
7 階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6 階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5 階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4 階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3 階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2 階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1 階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B 1 階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B 2 階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 令和6年度寄贈者御芳名

本年度に資料をご寄贈くださいました方のお名前を記してお礼といたします。

【団体】

図書資料寄贈者

都道府県	寄 贈 者 名
北海道	千歳歯舞諸島居住者連盟
〃	北海道博物館
宮城県	学校法人宮城学院資料室
〃	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
〃	村田町歴史みらい館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館
埼玉県	川越市立博物館
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	野田市郷土博物館
〃	歴史認識問題研究会
東京都	JCIフォトサロン
〃	板橋区立郷土資料館
〃	大田区立郷土博物館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	宮内庁宮内公文書館
〃	暮しの手帖社
〃	公益財団法人水交会
〃	公益財団法人野球殿堂博物館
〃	公益財団法人海原会
〃	公益財団法人偕行社
〃	公益財団法人新聞通信調査会
〃	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	公益社団法人日本写真家協会
〃	國學院大學研究開発推進機構
〃	一般社団法人日本郷友連盟
〃	杉並区立郷土博物館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	立川市多摩川図書館
〃	たばこと塩の博物館
〃	地人館
〃	千代田区立日比谷図書文化館
〃	千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京芸術大学出版会
〃	東京都公文書館
〃	東京都青果物商業協同組合
〃	豊島区立郷土資料館
〃	日本カメラ博物館
東京都	日本大学企画広報部広報課
〃	一橋いしぶみの会

都道府県	寄 贈 者 名
〃	福生市総務部総務課
〃	法政大学図書館事務部小金井事務課
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	港区総務部 総務課 人権・男女平等参画係
〃	明治学院大学国際平和研究所
〃	明治大学史資料センター
〃	株式会社ユニコ舎
〃	陸軍少飛平和祈念の会
神奈川県	小田原市経済部小田原城総合管理事務所
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
〃	横浜市技能文化会館
〃	横浜市史資料室
新潟県	歴史教育史研究会
富山県	富山市郷土博物館
長野県	長野市立博物館
岐阜県	岐阜市歴史博物館
静岡県	沼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	東海市の戦争を記録する会
三重県	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪歴史博物館
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	神戸空襲を記録する会・関係資料編集グループ
〃	社会福祉法人きらくえん
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市立博物館
島根県	松江歴史館
岡山県	岡山空襲展示室
広島県	広島市原爆被害対策部調査課
〃	広島大学75年史編集室
徳島県	徳島市立徳島城博物館市史編さん室
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
福岡県	九州歴史資料館
長崎県	長崎原爆資料館
沖縄県	ひめゆり平和祈念資料館

映像・音響資料寄贈者

都道府県	寄贈者氏名
東京都	社会福祉法人愛児の家
愛知県	豊田市戦没者遺族連合会

【個人】

図書資料寄贈者

都道府県	寄贈者名
宮城県	安孫子 真二
福島県	馬場 百合子
茨城県	三村 節
群馬県	手島 仁
埼玉県	北村 昌人
〃	光多 隆之介
埼玉県	山城 千恵子
千葉県	岡田 正敏
〃	歸山 則之
〃	平岡 揺子
東京都	池田 敏光
〃	塩冶 尚紀
〃	大川 知子
〃	大橋 秀紀
〃	川上 翔平
〃	川村 秀
〃	後藤 温子
〃	嵯峨山 裕子
〃	菅谷 雅彦

都道府県	寄贈者名
東京都	鈴木 亮
〃	高宮 光江
〃	内藤 弦
〃	長濱 晴子
〃	服部 純一
〃	芳賀 則雄
〃	羽切 まり恵
〃	引間 啓二
〃	日比 恆明
〃	森 敬子
〃	森田 牧
〃	山中 一泰
〃	横山 美樹
神奈川県	石井 信和
〃	小市 吉太郎
〃	志賀 紀雄
〃	下重 清
〃	菅原 和歌子
〃	鈴木 康嗣

都道府県	寄贈者名
神奈川県	中澤 伸二
〃	谷亀 美枝
福井県	中島 嘉文
愛知県	恒川 利雄
三重県	中島 久恵
京都府	山本 博之
大阪府	小林 純子
兵庫県	佐藤 史
〃	高井 和子
〃	常深 寿俊
〃	村岡 信明
福岡県	緒方 裕子
熊本県	小川 留里
大分県	臼木 光子
鹿児島県	宮山 紘一

映像・音響資料寄贈者

都道府県	寄贈者名
千葉県	市岡 實
東京都	石川 令子
〃	江沢 紀江
〃	大川 知子
〃	鎌田 麻里
〃	川上 翔平
〃	篠崎 徳孝
〃	竹山 こころ
〃	内藤 弦
〃	長濱 晴子
〃	原 隆子
〃	山中 一泰
〃	吉川 和子
神奈川県	菅原 和歌子
〃	武政 健一
〃	師岡 文男
〃	吉田 博
兵庫県	大野 煌子
アメリカ合衆国	Daniel Breg

昭和館館報 第26号（令和6年度）

令和7年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03（3222）2577